



## ごあいさつ

代表世話役 西本 孝

2026年、新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。昨年は、中国地方5県交流会を開催し、皆さんの協力により、県外からのお客様に満足いただけた交流会となりました。沿岸域の自然保護がテーマで、寄島町でのアッケシソウの保護活動や、笠岡市の干拓地での干潟の回復状況を視察し、身近な地域でおきていることを実感するとともに、今後の活動に参考となる多くの課題が見つかりました。

本年も、県内の自然環境について、様々な課題に取り組み、多くの人たちと交流をしながら、活動を進めていきたいと考えています。引き続き、お手伝いをお願いします。

## 活動報告（2025年12月）

## 講演会と忘年会

- 日時：12月14日（日）13時～18時
- 講演会：13時～15時
- 講師：小林秀司先生（岡山理科大学教授）
- 内容：岡山のヌートリア

- 忘年会：15時～18時
- 場所：e-Tam 自然と教育研究所
- 報告：詳細はハ田さんが報告

## 今後の活動予定（2026年6月まで）

## 第35回自然観察会

- 日時：4月26日（日）10時～14時
  - 場所：毛無山（新庄村）の登山道
  - 特徴：早春のブナ林の林床で開花する春植物
- を観察。毎年同じ時期に希少なブナ林を訪れて、自然環境の変化を実感する。

●連絡先：西本 [taknishi@js4.so-net.ne.jp](mailto:taknishi@js4.so-net.ne.jp)

## 年次総会と第36回自然観察会

- 日時：6月14日（日）10時～15時  
午前 10時～12時 総会  
午後 1時～3時 自然観察会
  - 場所：桃源郷はなしの里
- 主催/募集：美川公民館  
●担当：立間

<https://maps.app.googl/9NhoJ617MiUNzJ9S8>

## 中国地方五県交流会 2026 in 島根 と自然観察会 37回

- 日時：6月27日・28日（土・日）
  - 場所：日御碕、立久恵峡
  - 特徴：日御碕に集合し、翌日は立久恵峡へ。
- 詳細は連絡を受け次第報告します。皆さん予定しておいでください。

●連絡先：西本 [taknishi@js4.so-net.ne.jp](mailto:taknishi@js4.so-net.ne.jp)

## 自主活動（2026年3月まで）

- 勉強会：2月15日（日）13時30分～16時 e-Tam 自然と教育研究所
  - 自然観察会：3月8日（日）10時～12時 玉野市深山公園
  - 自然観察会：3月29日（日）10時～12時 岡山市こどもの森
- 詳細は、後日お知らせします。興味ある方は、日程を確保しておいてください。

## 年会費

会費は、年度払いです。総会で支払うか、郵便局等で振り込んでください（手数料は各自）。

●ゆうちょ銀行 記号 15440 番号 38433761 NOI 岡山

●他金融機関からの振り込み 店名五四八 店番 548 普通預金 3843376

## 活動報告

講演会 — 2025年12月14日開催 報告

八田奈緒

特定外来生物ヌートリアについて、その生態だけでなく日本に定着した真の原因を科学的データと歴史的背景から解き明かす内容であり、単なる外来生物や害獣として捉えていた自分の認識を大きく改める機会となりました。

講演の冒頭で紹介されたヌートリアの性質も印象的でした。ヌートリアは極端な平和主義者で、面倒くさいことを嫌い、「頑張らないことを頑張る」動物であるという表現は、ヌートリアの行動特性を分かりやすく伝えていました。また、小林先生は「ヌートリアの話なら三日は語れる」と笑顔で話され、その言葉から長年研究対象として向き合ってこられたヌートリアに対する深い愛情が感じられました。

1945年当時、日本では「1000万人餓死説」が語られるほど食糧不足が深刻でした。戦争による生産基盤の崩壊や凶作が重なり、ヌートリアは戦後の食糧難という時代背景の中で、人間の都合によって「救荒動物」として導入された存在でした。体重の約半分が肉になり、病気に強く飼育が容易で、成長が早いなど人間にとて都合のよい特徴を持っていたことが普及の背景にありました。一方で、毛皮輸出が期待通りに進まなかったことなど、人為的な計画の失敗が、その後の野生化につながった経緯も語されました。

ヌートリアは岡山の水辺では身近な存在であり、農業被害や生態系への影響が指摘されてきました。しかし、その多くは実態の検証が不十分であることが示され、誤った理解が問題の本質を見えにくくしていることを学びました。

また、生態系に与える影響についても、科学的検証によって誤解が正されてきた事例が紹介されました。こうした話から、ヌートリアはすでに生態系の中に組み込まれ大きな影響を与えずに順応しているのかもしれませんと感じました。

今回の講演を通して、外来種問題を先入観やイメージだけで判断するのではなく、正確な知識と客観的なデータに基づき冷静に向き合う姿勢の大切さを改めて考える貴重な機会となりました。

### 追記（西本）

小林先生は、ほ乳類の研究者です。南米でのフィールド研究など、野外での調査活動の経験が豊富です。岡山に来てからは、ヌートリアの研究を進めて、最も詳しい先生です。

講演会後には、恒例になった忘年会が開催されました。参加者が、今年気になった自然の様子について話をしました。普段目にしている身近な自然が、いつもと違ってきてることを、多くの人が話題にしていました。

西本代表は、東北での熊の出現は、ブナの果実が凶作であることが、親交のある秋田県の研究者が報告していたのを受けて、岡山県でのブナの結実周期も、20年前からすでに変わってきていたことを報告しました。

最後に、小林先生は、鏡野町の風力発電諸計画が中止となったことが、今年最も注目すべき事例であったと報告されました。地域の自然を大切にするだけでなく、白賀渓谷では、生きものが多様な環境で生き続けていることに注目し、今後も生き延びられるように、私たちは見守るべきあることを強調していました。



写真1. 講演会の様子。講師の小林先生が、ヌートリアについて、外来生物としての間違った噂を否定するなど、生態などの詳しい情報をわかりやすく教えてくれました。